舞樂圖

右

2 vols
BPRuss
d KL
g AVV
G182760

v. 2
XMGS
(Japanese)
Takashima

舞樂圖を千春ぬしの筆にて文政六年上梓同十一年五月着もよおれど
左方のみ右方は彩色なき世の例にず誰人も遺憾とす爲なり三年前
松原佐久君を訪ひしに坐側に右舞の畫巻あるを見てあまめずしと
拔きたるを例にて計らん亡友北爪老人のぜひし圖なりとも松君は語り
借來り鈴木秋湖をして寫しむるを故實叢書第三輯の
時あるに及び左方をも併せ其序を編入して刊行すべきなり此
高島千春は京都の畫人なり通稱壽一郎融齋と號す有職故實を研究し
古圖類從數十巻の著あり其調度一巻は文政五年刊本なりきと
江州大森の領主最上家に仕へ江戸本所の邸に居住す安政六年十月歿行年七十
北爪有卿は當一郎と稱す德川幕府の吏人畫を雪旦に學びて英旦と號す
後ち融齋に從い有職畫を修む明治六年文部編輯局の畫員となり
十八年雅樂所を徵され更に舞樂圖を作れり二十一年七月歿行年

らの師等の當るにて左右完具せしも漏れ圖像をあつめて北老の
此圖と師の來定粉本を採られ舊作と見え古畫を主とせしが左方を
同じくいま上梓する當り左三十九圖右三十圖その合冊を殘數の
均しからざるより新る樂面を右方の末に加へる事となしたり
舞樂の假面を樂家錄はじめ集古十種等の諸書に見れど眞目の
異同はいと少ければ本書に收むるところを曾て田安家（徳川伯爵家）藏の物を
就き高檜松亭して描寫せしもの其多きを居れり
アヽ多年望みなき望みし舞樂圖の北爪杜原兩友の餘慶を困りて
世人の渴仰をも充すを得るこれを悦ばざらんや
手のまひ足のあがきを知らずいわべき欤

明治三十八年乙巳春仲

大槻如電識

石舞目錄

壹越調

一新鳥蘇
一退走德 德或作悳
一胡蝶
一綾切
一皇仁庭
一埴破
一仁和樂
平調
一林歌
雙調
一登天樂
一古鳥蘇
一納蘇利
一延喜樂
一數手
一貴德
一胡德樂
一蘇志摩利 双
一進走德 走或作宿 次同
一長保樂
一蘇利古
一新靺鞨
一狛掉
一嵓崙八仙
一白濱
一地久

本圖混平雙五曲于壹越調中。宜准下此目以正。

一鼓　一曲

一東遊　一大和舞

一人長　一風俗

樂面　二十五面

陵王　還城樂　納蘇利

胡飲酒　散手二面　貴德二面

安摩　二舞二面　胡德二面

採桑老　皇仁庭　秦王

八仙　退走德　進走德

綾切　抜頭　蘇利古

瓶子取　地久

新鳥蘇

新鳥蘇
四人舞

古鳥蘇

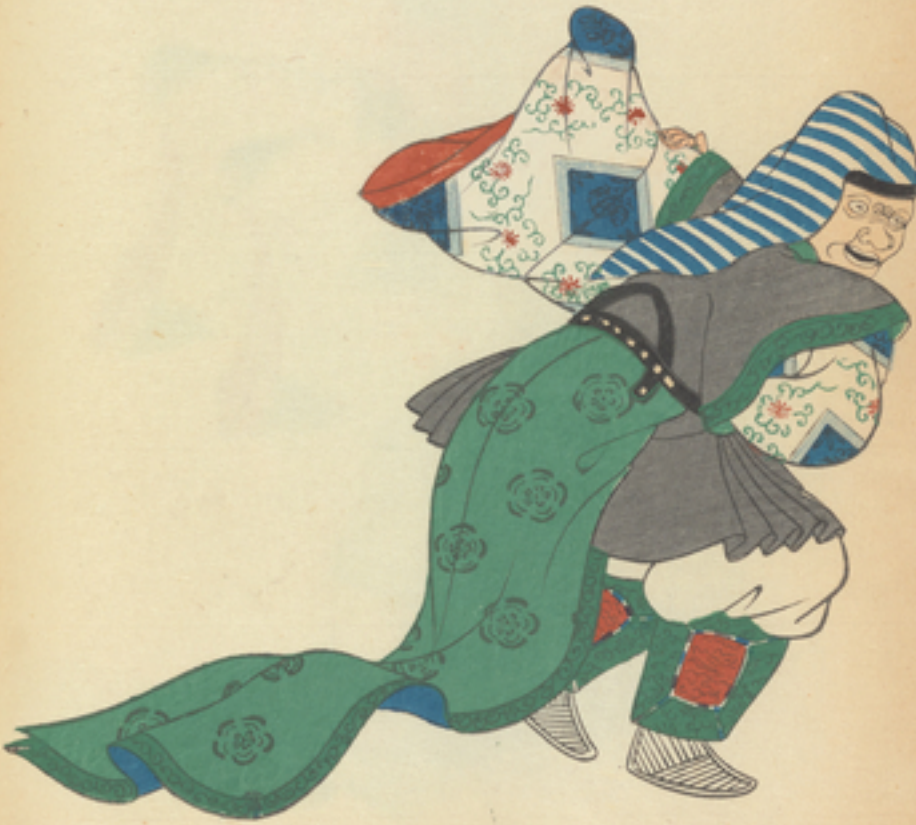
六人舞

退宿德

四人舞

退宿老

四人舁



納留利

一人舞

長保樂

六人舞

胡蝶

四人舞

延喜樂

六人舞

蘇利古

四人舞

登天樂

六人舞

紋切

四人舞

地久

六人舞

數手

四人舞

新鞍鞠

四人舞

皇仁庭
四人舞

貴徳

一人舞

狛桙

四人舞

埴破

四人舞

胡德樂

四人舞

鬼谷八仙

四人舞

仁和樂

蘇志摩利 北樂今者地六人舞

林歌

四人舞

白濱

四人舞

東遊

六人舞

大和舞　大嘗會風俗　可謂小兒舞樂之外

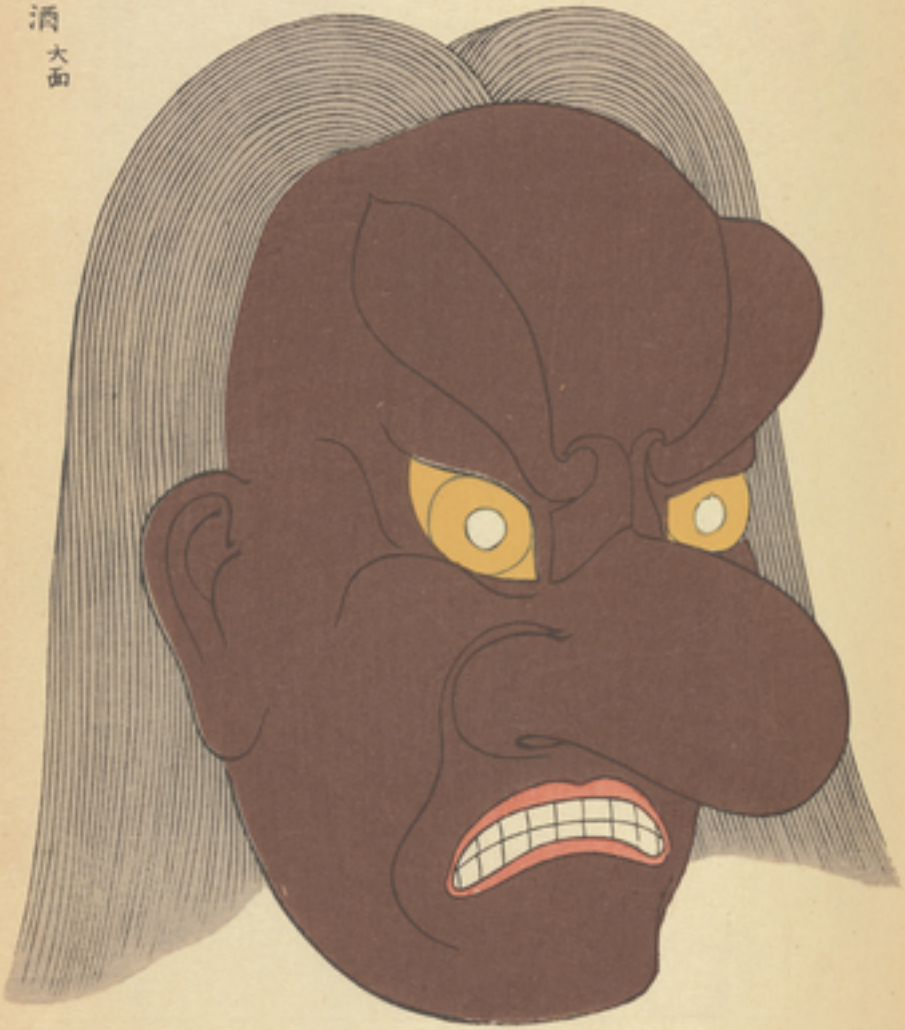
御神樂人長　舞樂之外

還城樂 中面

納蘇利大面

抜頭 大面

胡飲酒 大面



散手 大面

鯉口貴徳 大面

貴徳 大面

二舞大面

胡徳樂 小面

蕤子賓 中面

採桑老 小面

秦王 中面

皇仁 小面

八仙 中面

地久 小面

退走德 小面

進走德 小面

新烏蘇 小面

皺切 小面

美術圖書發售所

京都市寺町二條南

合名會社 芸艸堂